

「自分の土①～入学式編～」



4月、咲き誇る桜並木に圧倒される季節。本校の背景には、皿倉山から花尾山、帆柱山へと続く山並みが堂々と横たわり、桜前線が駆け上っていきます。この山並みは、私たちの「心の原風景」であるような気がします。

そのような中4月10日(木)、ご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、仰星学園高等学校第20回入学式を挙行いたしました。学校長式辞では、「花作り」をもとにお話しました。

新たな出発をするこの時期にふさわしい、「菊根分け 後は自分の土で咲け」という句があります。

この句は、「宮本武蔵」などを執筆された作家 吉川 英治 先生が詠まれたものです。この吉川英治 先生が、友人の娘さんが結婚する際に贈った句です。「菊根分け 後は自分の土で咲け」という言葉通り、「生まれ育った家を離れて、今度は自分で新しい家庭を築いていきなさい」ということを菊に例えたものです。皆さんにとって、まだ結婚という時期ではないので、本来の意味とは少し異なりますが、この句は高校の三年間に通じるものがあります。

菊作りは、春から夏にかけ、息つく暇もないほど様々な作業に追われます。その菊づくりの過程で、吉川英治先生が言われる「後は



4月上旬 咲き誇る体育館前・カレリア前の桜

自分の土で咲け」の「自分の土」が与えられる時期があります。それは、七月末の最後の植え替えです。大きな鉢に植え替えられた菊は、これから先、与えられた「自分の土」だけで咲かなければなりません。実は菊作りの勝負はここから始まるのです。

梅雨明け宣言が出され、一年中で一番暑い時期です。植木鉢の土はすぐにカラカラになります。この時期、菊の背丈は止まったようになります。かわいそうにと思い、つい水やりをしなくなります。【次号に続く】



4月10日(木)入学式当日のクラス発表・受付の様子



4月10日(木)第20回入学式の様子

【上】緊張の中、入場する新入生の皆さん

【左】学校長式辞



【上】新入生代表誓いの言葉【下】担任紹介



新一年生学級開きの様子

新入生代表誓いの言葉で、「私たちは今日から仰星学園高等学校の生徒として高校生活の第一歩を踏み出します。これからのことを思うと不安や心配もあります。しかし、中学校とは違う新しい環境の中でどんな仲間と出会い、どんな学校生活が待っているのかと思うと、あふれるばかりの夢と希望で胸がいっぱいです。学校生活に慣れるまでは色々困惑することもあると思います。そんな時は先生方からアドバイスをいただきながら、あせらず一步一步進んでいこうと思います。勉強はもちろん、部活動や生徒会活動、そしてたくさんの友達との出会いの中で、それぞれがやりたいことを見つけ、それに向かって進んでいきます。先生方、先輩方、そして保護者の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。私たち新入生は、ここ仰星学園高等学校で勉学に励むとともに、努力を怠らず、様々な活動に積極的に取り組むことを誓います。」と宣言する新入生代表 内山さん。

1 A



1 B



1 C



1 D

